My GEO STORY vol.36

地元を愛するみなさんを紹介するコーナー

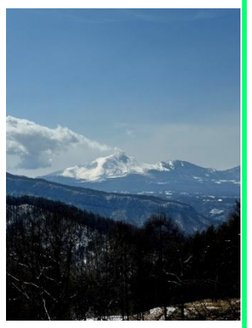
会社員（林業）

藤野　由貴男　氏

標高1000mを超え、冬はマイナス20℃になる日もある北軽井沢。幼い頃、テレビの天気予報の軽井沢の最低気温を見ながら、こんな寒い所に住みたくないなと思っていました。なのに、そこよりも寒い北軽井沢へ移住して20年を超えました。

現在は、林業に従事しています。主な現場は吾妻郡内の国有林。手入れが遅れている山林を整備して、山の水源を確保し、山の機能を取り戻す作業です。標高700～1600m位。夏は暑く、冬は寒い、人材不足、高齢化、下がり続ける木材の価格等の影響で、すごいスピードで山が衰退しています。山が弱ると、自然の循環が滞り、木々も土も弱り、下流にかけて様々な影響が出ます。ちょっとでも維持できる様、日々、奮闘しています。そんな作業の中、現場によっては浅間高原が一望できます。特に六合方面から見る浅間高原が一番お気に入りです。もう麓まで雪が降った、今日は山の噴煙が元気だな、とか感じながら仕事できるのは贅沢な事だなとよく思います。

これからもこの広大な自然を残していける様、いろいろと知識を高めながら日々の作業を頑張っていきたいと思います。



ジオジオ豆知識 vol.36

万座しぜん情報館 館長

小林　直樹 氏

万座自然情報館は、万座・草津地域の自然を中心に、歴史や文化も含めて紹介するビジターセンターです。この地域は草津白根山という活火山を抱え、温泉や火山性の地形とともに、火山の影響を受けた独特の森が広がっています。万座の大きな魅力の一つが、カラマツの自然林です。巨木が多く、樹齢200年を超えるものもあると思われます。なかには名前の付いた木もあり、森の中に立つ姿はとても見応えがあります。湯の丸や高峰にもカラマツ林はありますが、万座の森は特に大きな木が多く、この地域らしい景色をつくっています。樹木の魅力は、季節によって表情を変えるところにもあります。夏は登山道や散策路から緑の濃い森を楽しみ、秋にはカラマツが黄金色に色づきます。冬になるとスノーシューを履いて、夏には入りにくい森の中まで歩くことができます。雪に包まれた巨木の森は、万座ならではの静かな美しさを見せてくれます。また、木の年輪や枝ぶり、葉の形には、自然の不思議なしくみが隠れています。年輪には木が生きてきた時間が刻まれ、葉や枝の形には、数学でいうフラクタルのような繰り返しの形も見られます。自然をただ眺めるだけでなく、少し深く見つめると、科学や数学、文化ともつながっていることが分かってきます。万座の自然は、きれいだと感じるだけでも十分楽しめる場所です。しかし、二度三度と訪れる人には、目の前の一本の木から、その土地の気候、火山、時間の流れまで感じてもらいたいと思います。

万座自然情報館では、展示や自然観察ツアーを通して、万座の自然をより深く楽しむきっかけを紹介しています。ぜひ万座自然情報館にお立ち寄りいただき、万座の自然を満喫してください。

アンケートに答えると毎号5名様にハンドブック（非売品）が当たる！

アンケートはこちら

夏のイベント情報！

7月17日	ジオパークアカデミー第４回	地域交流センター
8月8日	Leave No Traceワークショップ	万座しぜん情報館
8月21日	ジオパークアカデミー第５回	地域交流センター
8月未定	ジオの日イベント	未定

発行：浅間山ジオパーク推進協議会
Mt. Asama Geopark Promotion Council
制作担当：広報・観光委員会

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬬恋村大字鎌原494-45
TEL/FAX：0279-82-5566
URL：www.mtasama.com
E-mail：info@mtasama.com

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。

[料金]＊ガイド1名あたりの値段
平　地：半日6,600円　1日13,200円（参加者11名以上ガイド2名）
軽登山：半日11,000円　1日16,500円（参加者8名以上ガイド2名）
登　山：　1日27,500円（参加者8名以上ガイド2名）

公式ＨＰ

GEOPARKS JAPAN 日本ジオパーク

Mt. Asama North GeoPark

浅間山北麓ジオパーク通信

あさまびと

ASAMA-BITO

2026 夏号 Vol.37

地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る

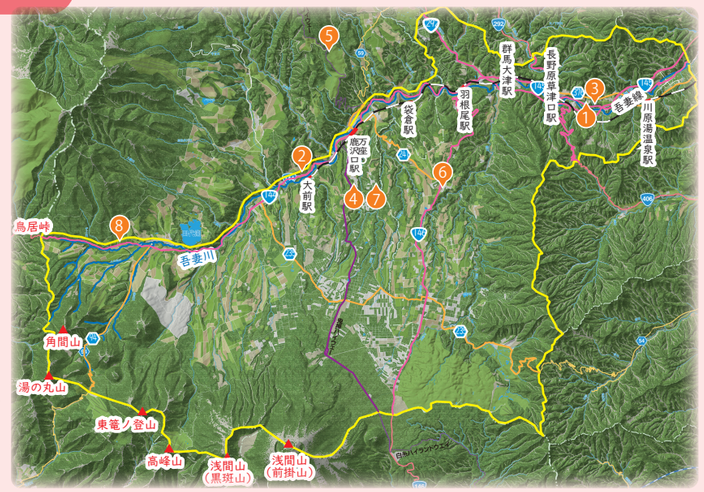
SDGs × ASAMA

特集：貴重なもの再発見：樹木

貴重な物再発見シリーズの第二弾夏号では、木を取り上げます。大きな木、長寿の木、珍しい木等色々な木があります。雪降る寒い中、葉を落とした丸裸の姿で立ち尽くし、春になると新緑に輝き、夏になると青々と茂る葉で日陰を作り、秋になると紅葉で色めきます。この営みを永遠と繰り返し少しづつ大きくなっていきます。この木々を見る時、何とも言えぬ安らぎを感じるのは何故でしょうか。多くの木々に包まれたこの地で、是非訪ねていただきたい木々を紹介します。

魅力あふれる樹木たち

木が発する代表的な揮発性物質フィトンチッドは、人をリラックスさせ和ませる効果があります。木々の成長はとてもゆっくり。樹齢数十年の木は珍しくなく、数百年に達する木も少なくありません。パワースポットと言われる場所にはこの様な木が多く見られます。
ご紹介する木々に触れて、パワーを蓄積してみては如何でしょうか。



真田幸隆軍が本陣を構えた時に植えた杉

①

径　510cm
樹高　36m
推定樹齢　400 年
長野原町　林

長野原町の林に日本武尊（やまとたけるのみこと）にまつわる信仰の山「王城山」の麓にある王城山神社。その境内には樹齢400 年を超える「神杉」があります。「加沢記」によれば、1563 年に真田幸隆が「林の郷、諏訪の森に本陣を置く」とあり、樹齢から推測すると当時植えられたものと考えられています。

神様が宿る香り高いこうの木

②

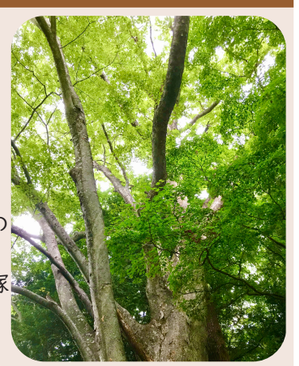
径　550cm
樹高　23m
推定樹齢　300 年
嬬恋村　大前

長野原と鎌原を渡った神様が、大前の諏訪神社に入る少し手前でこの木の上で休むことから「神の木（こうのき）」と呼ぶ、と地元では伝えられています。また、秋の紅葉の季節になると落ち葉から香ばしい香りが広がるカツラの木であることから、「香の木」という説もあります。嬬恋村内には諏訪神社が７社あります。

時をまとい静謐（せいひつ）をまとう、御塚の板屋楓

③

径　530cm
樹高　32m
推定樹齢　400 年
長野原町　林



長野原町の林にある御塚の上に、巨木「いたやかえで」があります。この御塚は寛永２年（1625）、自らの身を捧げて即身成仏を願った権大僧都法印（ごんだいそうずほういん）という位の浦野村信のお墓です。自生か植えられたものかは不明ですが、ほぼその頃から御塚を見守ってきました。

災害を超えて生き続ける大ケヤキ

④

径　420cm
樹高　24m
推定樹齢　370 年
嬬恋村　鎌原

鎌原神社の大ケヤキは、枝が上に向かって力強く広がる巨木です。天明３年浅間山噴火の鎌原土石なだれに耐え、生き伸びました。鎌原神社には、土石なだれに負けず生き残ったカツラ、モミ、モミジなど５本の木々が青々と葉を元気よく茂らせています。噴火災害の歴史をこれからも伝え続けていく樹木です。

まちの木・むらの木　浅間山麓の木

嬬恋村と長野原町には、地域の歴史や暮らしと深く結びついた木々が点在しています。
浅間山麓の自然の中で育まれ、人々に親しまれてきた木の魅力を紹介します。

嬬恋村の木：シラカバ

1972 年（昭和 47 年）に村制施行 80 周年を記念して村の木に制定されました。1000m 前後の冷涼な気候に適応し、浅間山の火山活動で焼け野原となった大地に真っ先に芽生える先駆樹種「パイオニア・ツリー」として繁栄する力強さが戦後の開拓者の心を捉え、白い樹皮に薄緑の葉の美しい姿が、観光地浅間高原を彩りました。

長野原町の木：カラマツ

1984 年（昭和 59 年）に町制施行 95 周年を記念して町の木に制定されました。極寒の地で力強く育ち、松の中では唯一の落葉樹で、春の新芽と晩秋に黄金色に輝く黄葉がこの地域を代表する風景として、住民に親しまれてきました。また、古くから植樹が盛んで、建築材や梱包材等として盛んに利用され、基幹産業として地域経済を支えました。

⑤ 空海の伝説が残る神木

熊野神社の御神木です。弘法大師空海が立てたスギの杖から根が生えたともいわれます。枝が地面に向かって垂れることから「さかさ杉」と呼ばれています。

⑥ 縁結びの〝合体木〟

応桑諏訪神社に、杉とケヤキが結合して成長した合体木があります。森の中で寄り添う姿から大きな力を感じられ、縁結びの御神木として親しまれています。

⑦ 国内では珍しい三葉の松

鎌原観音堂境内にある松は、葉が三本に分かれる日本では珍しい松です。高野山では、弘法大師の三鈷杵にまつわる「三鈷の松」の伝説でも知られています。

⑧ 冬のまちを彩る、森からの贈りもの

冷涼な気候で育ったモミは、首都圏の有名スポットのクリスマスツリーに使われており、枝葉から抽出した精油は、アロマや消臭･抗菌商品にも活用されています。